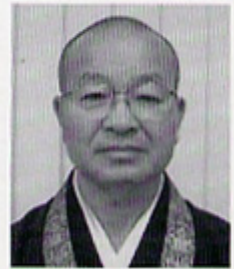


百味講たより

平成16年12月発行
発行所大本山増上寺
百味講講報企画部
発行者 吉野美喜夫

第9号



大本山増上寺
教務部長
蓮池光洋

百味講の皆さま、お元気でお過ごしですか。日頃皆さまには大変ご協力をいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

大本山増上寺は浄土宗七大本山の中でも筆頭に値する本山であります。伝法を中心とした修学教化、伝道の大本山として僧侶は勿論、壇信徒や大衆の出入りを自由にされた近代都市の中に聳え立つ殿堂であります。都会の喧騒を離れた緑の境内で当山の事業が日々恙なく行われているのも百味講の皆様各々のお力のお陰と感謝に耐えません。

皆さまはご縁によって本山の仕事に携われ、そのお姿を拝見するときに、いつもにこにことしてご挨拶下さいます。仕事に疲れていてもお顔はいつも優しく接して下さいますので、私たちが励まされています。

百味講と申しますと昔から四月

み仏に仕える

の御忌中、お練行列の中で袴を着けられた講中の方々が三宝を手にして献供をされる、そのお姿がとても印象的です。いかにもお仕えさせていただけます、という姿勢を感じるのです。「み仏に仕える」ということほど尊い美しい仕事はございません。

仏教に「今日好日」という言葉がございます。今日この日が一番大切な日であり、この日を逃すとこの今が遠のいてしまうのです。今が一番大切なときであり、この今こそ仕事に打ち込む絶好の時と受けとめるのです。明日でもない、昨日でもない今のこのひと時に生命をかけ、全身全霊を捧げて働くことが尊いと釈迦は教えます。

次に「所在道場」これは毎日毎日どこに居ようと、そこが私の道場、仕事場と受けとめて働かせていただく、その心持ちが大切であります。「所作為弁」、難しい言葉

ですが、やることを為すこと全てを生かしていくということです。そして最後に「用畢速去」です。用が済んだらサッサと次へと教えませす。いつまでもお茶を飲んで休んでいたり仕事をさぼろうとせず、一つの仕事が済んだら次の仕事に打ち込んでいく。私たちが本当に生きる道しるべとして斯様に教えてくれました。

○今日は好い日だ元気でやろう
○どこにしようと思わぬで醒めてやること為すこと全てを生かし用が済んだらサッサと次へ

この四句、若い時から教わった釈迦の言葉とした尊く戴いております。本当に生きんが為に私たちは何をしたらよいかということです。働くこと、仕事をさせていただくことが一番大切なんだと心得て精一杯励む、これが最も大切であると思っております。

釈迦に説法、ご無礼を申し上げますが、百味講がいついつまでも皆仲良く本山と共に栄えん事を祈念し粗稿をお許し戴きたく存じます。

教務部長 蓮池光洋



有限会社 ボブス
代表取締役
豊田 絢子

音と映像

雨音の激しさで、「はっ！」と目を覚ますことがあります。強風の音が「びゅうー」と聞こえてよほど強い嵐なのかと、思わず窓から外を見てしまいます。まさにこのことが音と映像なのです。音だけを耳にしても、目で確かめたいと思うのは自然のありさまなのです。

私共の仕事は、この音や映像に寄って再現して大切な事をそのまま伝えることなのです。

弊社は、平成二年の創業です。当時は、葬儀の折りにお寺様の声や弔辞などの声をスピーカーより外の参列の皆様へ聴いていただく事がまだ珍しく、本格的な音響の会社が無い時でもありました。其れまでは、式典中は式場内でのようなことが行われているのか解らなく、ただひたすらに式の終わるのを待っているあり

さまでした。本格的なマイクを通して聞こえてくる弔辞・祝辞の言葉が参列の方々にも、式典に参加している感じにさせました。

また、控室や特設テント内で式場内の様子をモニターテレビで見れることは、式中の時間を共有すると言う画期的な事でもありました。

弊社は、創業当時から音質に对此こだわり、スピーカーの配置一つまで気を配りました。コンクリートの壁と、木造の作りとでは音の跳ね返りが違います。

音の調整には時間の限られた中での迅速な作業が必要となります。「ハウリングはどの当りか？」と、準備の段階で95%が決まります。

また、カメラの位置も式典の進行を妨げない配慮によって自動式にすることも

弊社が葬儀や式典に取り入れられました。カメラも高画質にこだわりテレビ局使用の物を購入致しました。撮影された画像は「もう一段上の葬儀」にふさわしい内容になりました。ダイレクトメールで宣伝をし、会社の内容も充実しました。

また、「BGM」をどのように取り入れたなら式典に花を添えられるか？私共は、あらゆるジャンルの曲を聞いて抜粋し、オリジナルの物を作り上げました。どのようなニーズにも応えました。服装に關しても、ジャンパーではなく身なりに気を遣いました。

ご寺院の落慶式などの法要では、式に寄って異なる様々な作法の違いなども熟知してことに当たっております。その中でも増上寺様御忌法要の唱導師様ビデオの撮影は大変名譽あるお仕事の一つです。この御忌に携われました事は、弊社にとっては誠に輝かしいことであります。このように一つ一つの仕事の積み重ねにより大いなる信用と実績を頂いて参りました。

技術の進歩は早くデジタルの世界にな

り、弊社でも、新しくカメラを入れ替え、編集のやり方もいち早く変わりました。録音・録画もテープから「CD」へ、ビデオテープから「DVD」へと変わって来ています。

世界中の出来事も、中継が出来ライブとして繰り返し見る事が当たりまえです。時間が短く、人生は長くなりました。「記録を残す」「思い出を楽しむ」、人生の歩んで来たしみじみとした懐かしさを大切に記録しておく事を、今だからこそ進めて行きたいと思えます。

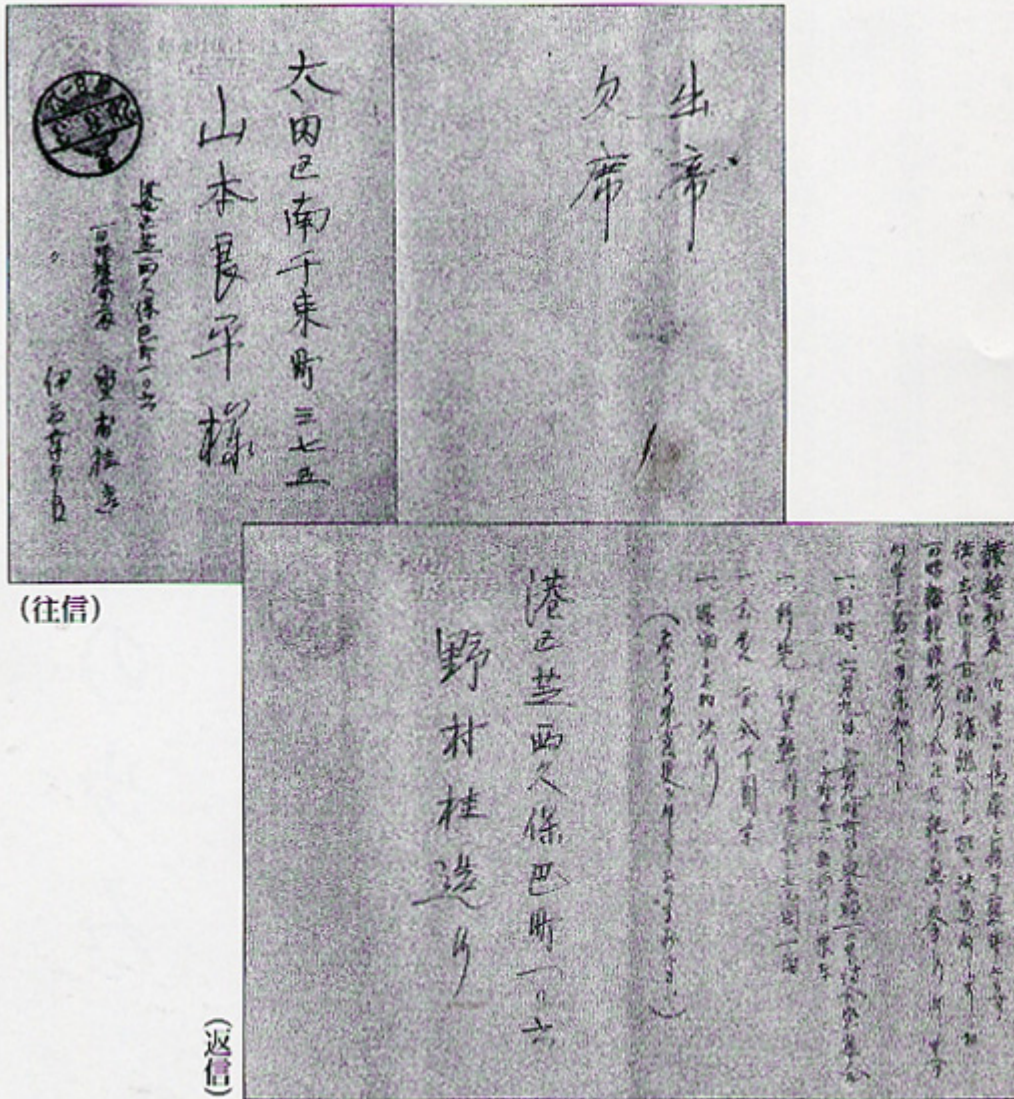
これからも、より一層の技術の向上と、お客様に「何を」ご提供出来るかを勉強し続けたく思っております。

弊社は、今年で十四年に成ります。これまで社員一同一丸となって精進してきました。また、百味講の講師となりました。早三年目となりました。これも御仏のお導きによる事と、深く感謝致しておりますと共に、励みと致しております。

最後に多くの方々のご支援を心からお礼申し上げます。今後とも、変わらぬご厚情を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

昭和二十八年百味講懇親会ご案内状

(山本氏提供)





(株) 日本香堂
専門部部長
町田 秀雄

私とお線香の歩み

お線香、お香にたずさわって三十数年経ちました。この業界に入らなかつたらば、お線香、お香の事は全然わからなかつた事と思います。

今から約千三百年前に淡路島に沈香木(じんこうぼく)が漂流してきて、その香木の存在が日本に知られる事となりました。広く線香が使用されるようになったのは、江戸時代にさかのぼります。インドから中国、そして日本に伝来してきた歴史があり、当初はインドで殺虫駆除とお線香が兼用され、いつしか日本に伝来した時には、お線香の形は棒状タイプになっておりました。

そもそもお線香の主原料は榅(たぶ)というものです。日本にも少しは生息していますが、東南アジアからの輸入に九

十%以上たよっています。主原料で無臭・無害のものです。その榅の木の皮(粉砕した物)とのり粉(棒状にするためののり分)と香料又は香木(こうぼく)を混ぜ合わせて出来た物です。

のり分が多すぎると立ち消えになります。良いお線香(有煙タイプ)ほどのり分を少なくして、香木を多くした物がよいお線香です。それゆえ、色は茶系統、折れやすいお線香ほど良いお線香と言うわけです。

お墓用の墓線香は、一般的に杉の葉を粉砕したものが主原料で、除虫菊を入れる場合も一部ありますが緑色のお線香が主流です。

緑色は青粉(あおこ)Ⅱ染料です。それゆえのり分を混ぜて作ったお線香の色

が緑と言うわけです。

昔は日光(栃木県)などで杉の葉を水車でつぶして粉にし、お線香の主原料を作ったものでした。その様子は今でも一部の所で見られます。俗に墓線香が杉線香と言われるゆえんです。

お線香は湿気に非常に弱い性質があり、湿気が多いとカビの原因になります。ですからお線香を保管される場所は流通段階でも、最終消費者の方もその他注意して保管場所を考えられています。

お線香はうどんの製造とよく似ております。押し出し機で多数の棒状タイプのお線香を段ボール上へのせ、乾燥させます。ここで興味深いお話をしますと、お線香は乾燥させた物ですが、常に水分を含んでおります(専門用語で含水率)が十二

十三パーセントあり、常に収縮しております。

ウイスキーのモルトと同じで、製造して何年間か貯蔵したお線香の方が、マイルドで上品なおせんこうの香りが楽しめます。

通常の匂い線香を製造するには、何種類もの香料、漢方などを入れて作りますので、非常に奥が深い商品です。

二十数年前から徐々に特に都市部を中心に、煙の少ないタイプのお線香が広く行き渡るようになりました。生活空間、生活習慣の変化が一因と思います。

煙の少ないお線香は、主原料が楠でなく、カーボンブラックつまり炭が主体です。

時代の変化で煙の少ないお線香が増えて来たのですが、やっぱりお線香は「香り」と「煙り」があるのが本来のお線香です。

やさしく言えば、ご先祖様、教え（教典）、お釈迦様導いていただく御僧侶への感謝を表わす贈り物ではないでしょうか。

最近では「いやし」としてお線香も若い人から年配の人まで、良く親しまれております。メーカーとしましても大変喜ばしい事と思っております。

最後に、最近若い人が殺人など非行に走る記事を新聞で毎日見ます。

全国で有数の非行の最も少ない県として鹿児島県があげられます。どうしてでしょうか。鹿児島の人達は毎日墓参りをされ、お花もお線香も毎日お墓にあげられます。親の姿を子供が見て育ち、手を合わせる事が自然と身に付いて来たのでしょうか。

仏事にたずさわる事が非行が少ない事の起因であると言われています。

お線香はそういった意味で社会に貢献している商品ではないかと思っております。

お線香と言う商品にめぐり合えた事に對して感謝しております。

少しでも良いお線香をご使用頂く事を心から望む次第です。

御忌

浄土宗の開祖法然坊円光大師の忌日に有って、之を単に御忌と云ふのは、もと御水尾天皇の勅令によりて法会を営んだが為で有ると云ふ。本当は陰曆の一月廿五日が忌日で有るが、知恩院及芝増上寺の御忌は今は毎年四月に修し、地方の浄土宗寺院にては陰曆の正月に行はる、が多い。

今年には知恩院の御忌について、増上寺に於ても円光明照大師七百年の大法要が四月九日から十五日まで一週間行はれたが、例年の御忌は三日間で有る。それから此期日も四月と云ふ外には厳に一定したことはないと思えて、四十二年の次第を見ると二十三日から二十五日迄の三日間行はれて居る。

御忌の次第は次に挙ぐる所の四十二年の「御忌会行儀次第」に譲るとして、一つ記して置かなければならぬは「お練り」と云ふもので有る。それはつまり其日の

導師が数多の衆僧を率えての上殿の行列で有って、例年のそれは大抵六七の僧侶によりて行はるゝので有るが、今年のそれは素晴らしい行列で有った。行列の先頭には鳶の頭がたつて光明講と云ふ旗を押し立て、徳川の昔徳ぶ葵御紋の社袴に帯刀姿の優姿塞三十名が之につゞき、百味講の旗を翻へした講員十五名又之につゞき、更に錦旗につゞいて香衣七条の大衆が二百名、赤地の金襴に杏葉紋附の揃の袈裟をつけた式衆が五十六名、素袍指貫に藁靴の打扮可愛らしい大中小の童子六名が練行く後を、紫衣に金襴大五条の袈裟をかけた唱導師は役僧二名宛を前後に、つゞいて香衣七条の脇導師八名、唱導師法類の外僧侶二百名及導師の信徒其他の善男善女数百名を従へて、静かに舊彌生館より人垣の間を練りながら三門を入つて上殿する。かうして五彩の雲の色美しく棚引く間を、六名の式衆が手ん手に携へた華籠より四色の蓮花を打ち降らす様は、宛然彌陀の浄土を面のあたりに見るがやうで有った。

尚本年は七百年の大法要紀念として、日々午前と午後の二回宛京都の本山に倣つて「おかうぞり」の剃度式を行ひ、毎日午後は特に宮内省から廻された伶人九名乃至三十六名が出張して、本堂前に設けた朱塗の舞楽殿で古雅なる舞楽の催しが有った。(東京年中行事)

芝増上寺御忌

(十二日一十八日)(東京乃四季)

法然上人御忌会 芝公園二号地 増上寺

稚児練供養 舞楽

四月十四日一十六日(とうきょう48年版)

四月十一日

黒本尊開帳 増上寺黒本尊開帳

(増補江戸年中行事・東都歳事記)

黒本尊の堂宇は。増上寺本堂の背後に在り。もと護国殿と称す六十六畳敷にして。文彩鏤玉今尚ほ煥焉たり。前に池あり。橋を渡り。石路を踏て参詣するを得べし。守護の僧房は。左の方に在り。

黒本尊無量寿如来 高二尺五寸



三縁山増上寺参門眺望之図
 〈文〉港区歳時記二
 〈絵〉描かれた港区

浄土宗
袈裟・法衣専門

(有) 吉野法衣店

〒160-0012 新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168 FAX 03-3355-2204

御袈裟・法衣専門

太田法衣店

〒121-0076 足立区平野2-15-16
TEL 03-3883-3225 FAX 03-3883-1634

伝統の技
三代にわたる信頼

(有) 古島法衣店

〒111-0041 台東区元浅草4-2-1
TEL 03-3842-1289

総合美術印刷

(有) 協栄社

〒135-0007 江東区新大橋2-14-8
TEL 03-3631-4758 FAX 03-3631-4767

仏壇・仏具

(株) 瑞祥浜田

〒111-0042 台東区寿2-9-13
TEL 03-3844-9473 FAX 03-3844-5017



大本山 増上寺 御用 達百味講

表装・額装・襖一式

石森表具店

〒108-0073 港区三田1-9-14
TEL 03-3451-3138

佛像・仏具 製作復元

佛師 山本和夫

〒145-0063 大田区南千束3-28-5
TEL 03-3727-1122 FAX 03-3727-1122

仏壇・仏具

(株) 安田松慶堂

〒104-0063 中央区銀座7-14-3
TEL 03-3542-5771 FAX 03-3546-2140

増上寺謹製・三縁クッキー

(有) ポエム洋菓子店

〒174-0046 板橋区蓮根1-18-11
TEL 03-3966-2324 FAX 03-3966-2398

念珠・記念品

(有) 平野屋念珠店

〒113-0034 文京区湯島4-5-3
TEL 03-3811-4450 FAX 03-3811-4405

音響・映像
 (有) ボブス
 〒145-0067 大田区雪谷大塚町7-10-703
 TEL 03-3729-5148 FAX 03-3748-3047

葬儀・式典企画運営
 富士典礼
 〒142-0031 品川区豊町4-3-17
 TEL 03-5434-2210 FAX 03-5434-0860

葬儀のご用命は
 古い信用・新しいサービス
 (株) 牧野総本店
 〒108-0074 港区高輪1-21-1
 TEL 03-3445-0506 FAX 03-3445-0508

懐石料理
 増上寺会館内
 (株) ヤマザキ
 〒105-0011 港区芝公園4-7-35
 TEL 03-3433-1193 FAX 03-3433-1352


 大本山 増上寺 御用達 百味講

創業寛政二年 七代目
 (有) 石政石材店
 〒108-0071 港区白金台4-5-7
 TEL 03-3441-1483 FAX 03-3441-3156

思いとどける ころろ伝える。
 (株) 日本香堂
 〒171-0014 豊島区池袋3-18-12
 TEL 03-3973-7111(代) FAX 03-3974-5647

お花で思い出を永遠に
 (株) 花 幹
 〒143-0024 大田区中央8-36-5
 TEL 03-3755-2120 FAX 03-3754-4687

式典・葬儀の会場設営
 テント・看板・放送・冷暖房設備等
 (株) 三 和
 〒146-0085 大田区久ヶ原5-3-20
 TEL 03-5748-2021 FAX 03-5748-2025

各種ご用命は
 御本山御用達の百味講
 各店へ!